



巻頭対談

相模原市の「地域力」

相模原市の「地域力」

—地域を支える市民の力—について語る

対談

相模原市長 加山俊夫

司会・市民活力推進部長 矢島義明

相模原市自治会連合会会長 細谷昇

お一人が考える「地域力」についてのイメージを教えてください。

市長 地域力とは、地域にお住まいの方たちが自分たちで安全・安心な環境を作り上げていくことだと思います。地域の人たちが手を携えて課題を解決する、この連携力、連帶力が「地域力」と言えるのではないか。

現在は、多様化、高度化した市民のニーズに行政だけでは対応できない時代でもあり、こうした地域の結束力が高いということは素晴らしいことで、そのことが住民生活にも反映されるのではないかと考えています。

細谷 私は現在、市の連合会長になつていますが、昨年度までは地元の自治会長を十四年ほど経験させていただきました。そ

の経験から言いますと、やはり相模原の地域力といえば「自治会力」といっても良いのではないか。

自治会は地域を「面」として捉えている唯一の団体です。他の団体は、「点」として活動することが多いと感じています。

自治会の活動は、各地域で多少温度差があるとは思いますが、「地域力」という意味では、自治会の力が大事だと考えていました。

より、取り組みを進めやすくなつたと感じております、非常に良かったと思っています。

細谷 自治会が抱えている課題といえば、未加入者対策、役員の高齢化、担い手不足、参加者の減少などがありますが、これらの課題は、長年にわたって関係者が感じていた課題で、古くて新しいものですし、なかなか表に出にくいものでした。この課題に市自治会連合会として対応するため、昨



左から細谷会長、加山市長

市長 自治会の課題解決に尽力してきた

方々は、地域に多くいらっしゃると思いましたが、このような会議でしっかりと検討し、行政も同様の課題として認識したということは、行政と地域が一体となつたパートナーシップの醸成につながつたと考えています。

ます。

これは大変重要なことであると思いますし、行政と市民が一体となつたパートナーシップにおけるシンボリックな活動の一つになつたと思っています。

自治会の活動は、昔に比べると 変わつてしまつたのでしょか？

市長 私の経験でお話すれば、昔の自治会

は、自分たちの家の前の清掃、道普請、環境のための活動などを、みんな当たり前に行つてきました。最近では、行政への依存度合いが高まつてきており、自治会の共同活動が希薄になつてきていると思います。

しかし、市全体で見れば、防災、交通安全、防犯、環境美化、教育、一人暮らしお年寄りへの支援や医療も含めて、様々な



提言書の提議式の様子（平成 20 年 6 月 27 日）

分野で地域が支えなくてはいけない、自主的な対応や備えをしなくてはいけない、力を持たなくてはいけないという意識を自治会の皆さんが持つていて思っています。確かに、見掛けは昔の自治会活動よりも参加者が少ない中で、地域の協力関係が薄れていますという見方もできるかもしれません。が、組織力の点から見ても、先ほどの提言書をまとめたということを例に出せば、地域の課題や問題を的確に捉えていた大変重要なことです。

行政と地域が一体となつたパートナーシップにおけるシンボリックな活動の一対しても、地域内の課題に対して、どうやつて共通認識を持つてもらうかというこ

とに、対しても、地域内の課題に対して、どうやつて共通認識を持つてもらうかというこ

とについても、自治会としても、周知するしかしながら、最近の住民の方の中には、多様化、高度化したニーズがあり、生活様式も様々になつてきています。こうした中で、時代に即した自治会活動ということを考えています。ただ、加入していない人たちには、連携の必要性、自治会の必要性を細谷会長もご指摘されていますが、「地域力は自治会力だ」ということをもつと伝えています。

これが大事だと思いますし、こうした周知を通じて、地域のいろんな活動に参加していただくことに繋げるということがポイントだと思います。昔も今も、自治会の役割というのは、安全、安心に住んで、暮らして、働ける地域社会を作ることで、逆にそういう住みよい地域を作るには、自治会がなければできないと思っています。

市長 この情報周知ということを考える上

では、今の生活様式を念頭に置く必要があると思います。例えば、昔であれば、お父さんは働きに出て、お母さんやおじいちゃん、おばあちゃんは家に居て、情報を取扱して、伝達する、あるいは地域活動に参加してもらうといった、いろんな情報伝達手段やコミュニケーション手段がありました。

自治会の活動や魅力を伝えること が非常に大切ということですね。

細谷 市の十一月十五日号の広報紙で自治会活動についてPRしていただきました

が、私が当たり前と思っていることでも、知らない人が多いと改めて思いました。

分の地域のふるさと祭りの実行委員会の決算報告の時に、ある自治会長がこの広報紙

を持ってきて、ここに載っている活動は初め知ったので、自分の自治会の活動にも取り入れてやりたい、ということを言つてきましたことがあります。

自治会の役員といえども、知らないことはあるので、情報をいろいろな媒体で伝えるということは非常に大事だということを改めて感じました。

これが大事だと思いますし、こうした周知を通じて、地域のいろんな活動に参加して、地域に住んでいる住民個々の生活実態に合

たりすると思います。今後は、このような方々に対して、情報が伝わらない場合の対策が必要だと思います。

役員の方も自分の生活もあるので、各

すが、行政としても、今回の事例集や広報紙のようなPRでの支援などに取り組むことが必要だと考えています。

地域と行政は、今後

どのような関係を築いていくべきでしょうか？

細谷 今は行政からの依頼業務が多いので、自治会長の負担になっている面はあると思います。例えば、地域に配布する行政からの配布物についても、今の地域情報紙に集約されるまでは、非常に多いなど感じていました。

これも、行政との話し合いの中で、地域情報紙ができて一定の整理がされて、やりやすくなつたと思います。今後、このような行政からの依頼業務について、自治会長や自治会が引き受ける上では、下請け的に行わずに、課題や問題があればすぐ行政に伝えて、しっかりと話しあうことが必要だと思います。これも行政と自治会の情報共有の一つであると思います。課題や問題の共通認識もなく、ある日突然、降つて来たような話をされると、自治会の方でも、意思疎通がうまくできないところも出てきてしまつと思っています。

逆に自治会の側でも、行政に何でも頼むのではなく自分たちでできることは、自らで行わないといけない時代にあることを自覚してもらいたいと思います。

会にお願いするところがこの位あるということは、事前に知つてもらうことが必要だと思います。また、行政の姿勢としても、すべてを自治会にお願いし、依存するのではなくといふことを、我々の反省として考へていかなくてはならないと思います。あくまで理解いたくなどの措置をしていかなく

会長研修が開催されれば、その中で、自治会にお願いするところがこの位あるということは、事前に知つてもらうことが必要だと思います。また、行政の姿勢としても、すべてを自治会にお願いし、依存するので問題を市長に直接知つてほしいということであると考えています。

私自身は、相模原の市長であり、市が大きく変わるときに、都市が向かうべき方向性についての強い意志を持たないと流れてしまうと思っています。本来であればこの私の思いを、地域において一番重要な団体である自治会の会長や皆さんに知つていただきたいと思っています。地域市政懇談会も当初はそういうことで始まったのかもしれませんですが、いつの間にか行政が、地域の要望をうかがう会議になつてしまつたと思います。道路を直してほしい、交番を作つてほしい、小学校のまわりの交通安全上の歩道を確保していただきたいといった話に終始してしまつことになつっています。しかし、このような議題も大切な議題であると思つていますので、実務的、日

ています。市長という職務上、対応しなければならない案件が多くあるため、なかなかこの懇談会には出席できませんが、私自身は、直接、地域の住民の方と話しをしていきたいと考えています。

最近、地域からは「市長が地域に出てこない」という声を聞いています。これが、年に1回ぐらいは市長と直接話しをしたいという思いであり、さらには、地域の問題を市長に直接知つてほしいということであると考えています。



常的な話として、担当副市長、局長が対応すれば良いと考えています。市政の責任者である私としては、政令指定都市になり、区制を施行する中で地域はどうあるべきか、市政はどうあるべきかを直接伝えていきたいと思っています。

私は、今、特に津久井地域に行つていろいろな話をしていますが、自治会長さんの集まりで話をしても、「そういうことを知らなかつた。市長から初めてこういう話を聞いた。」といった声や「こういう話を聞きたかった」という声を多く聞きます。そういう声を多く聞くにつれ、情報と

お互いの意思疎通をうまく図るためにどうしたら良いでしょうか？

市長 自治会と話し合う場面としては、現

在、地市政懇談会を開催させていただい

ます。しかしながら、このように大切な議題であると思つていますので、実務的、日から、こういう直接、地域住民と市政につ

いて話す場の必要性を感じています。例え
ば、市自治会連合会の会合の中で、そのよ
うな場を作つていただければ、年に1回ぐ
らいは地区連会長の皆さんに直接話をさせ
ていただきたいですし、その場合は、時間
対してフリーに自治会長さんがどんな風に
考えていられるのかをさせたら良いと思ひ
ます。

また政令指定都市移行後は、地区自治
会連合会の区域単位に、地域政策担当とい
う地域密着型の行政を担う重要なポジショ
ンの職員を配置するので、その地域政策担
当が地区自治会連合会の会合で、私の考え
や市政の方向性などを話すといったことも
できると思います。

細谷 地域と行政の関係は、先ほど話した
「地域を元気にする検討会議」でも議論を
化していましたが、提言項目を一つでも具体
化していくこと、市自治会連合会の中に、小委員会を立ち上げて、取り組
んでいく予定にしています。この中で、
今、市長がおっしゃった地域実情や市政に
ついて話し合う場のことについても、是非
検討してみたいと思います。

政令指定都市を目指す 相模原市の「地域力」の今後の 展望をお聞かせください。

細谷 これまで私が話してきたことは、

たいと思っています。

何も目新し

私は、地域力を高めるという意味で
ついて、地域の自治会の皆さんとも共通な
情報を持つことが必要だと考えています
し、今後は、媒体として広報やインター
ネットでも情報提供しますが、直接顔と顔を
合わせて、私が市政の方向や課題について
話し、逆に、地域としては、その考え方につ
いてこのように思うといった情報交換ので
きる「市政のあり方について対話できる
場」を作つていきたいと考えています。

市長 これからますます市民の生活様式や
要求、要望が多様化していく中で、人間社
会の常としては、多様化、高度化するにつ
れ、依存性が高まると思います。そういう
意味では、相模原市も市民の中に行行政依
存、組織依存が残っていると思います。
矢島部長 しかし、「地域力」という視点で一番
大事なことは、身近な生活問題に対処する
ためには、地域の「連携」が無いと対処で
きないということを理解していただくこ
とだと考えています。その「連携」の中心
は、やはり自治会になるのだろうと考へて
います。これから、市民ニーズが多様化す
る中では、行政だけで対応することはでき
なくなります。今の相模原市では、自
治会加入者が少ない中で、地域の安全が保
たれ、防災対策もしっかりと行われ、福祉対
策、環境対策がきちんとできているのは、自
治会の組織がしっかりとしているから
ではないでしょうか。

今の自治会は時代にあわせて形を変え
ていかながら、より地域のまちづくりに対
応しなければならなくなるでしょう。なく
なればそれで良いというものではなく、地
域の多くの人の参加の上で守つていかな
ければなりません。これが地域力だと思
いますし、「地域力＝相模原力」につながる
だということを訴えていくように努力し
と考えています。